

## 第 17 回国語分科会国語課題小委員会・議事録

平成 30 年 2 月 16 日（金）  
13 時 00 分 ~ 15 時 00 分  
旧文部省庁舎 2 階・文化庁特別会議室

### 〔出席者〕

（委員）沖森主査，秋山，石黒，入部，川瀬，塩田，鈴木，関根，滝浦，田中，  
やすみ，山元各委員（計 12 名）  
（文部科学省・文化庁）高橋国語課長，鈴木国語調査官，武田国語調査官，  
小沢専門職ほか関係官

### 〔配布資料〕

- 1 第 16 回国語分科会国語課題小委員会・議事録（案）
- 2 分かり合うための言語コミュニケーション（報告）（案）

### 〔参考資料〕

- 1 報告案 - 1 と - 2（Q & A）対照表（案）
- 2 四つの要素の概念図案について

### 〔机上資料〕

国語関係答申・建議集  
国語関係告示・訓令集  
国語分科会で今後取り組むべき課題について（報告）  
国語に関する世論調査 分類別問い一覧（平成 28 年 12 月 6 日版）

### 〔経過概要〕

- 1 事務局から配布資料の確認が行われた。
- 2 前回の議事録（案）が確認された。
- 3 配布資料 2 「伝え合いのための言語コミュニケーション（仮題）（案）」について説明があり，説明に対する質疑応答と意見交換が行われ，国語分科会での報告に向けての修正について主査一任とすることが了承された。
- 4 次回の国語分科会について，平成 30 年 3 月 2 日（金）午後 1 時から 3 時まで文部科学省 3 階・3 F 1 特別会議室で開催することが確認された。
- 5 質疑応答及び意見交換における各委員の発言等は次のとおりである。

### 沖森主査

ただ今から第 17 回国語課題小委員会を開会いたします。お手元にあります配布資料 2 「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）（案）」を御覧ください。この報告案につきましては，前回の国語課題小委員会の後，2 月 1 日の主査打合せ会での検討の後，計 2 度にわたって事務局から各委員の皆様にお送りし，御意見を頂いてきたものです。本日お示ししましたのは，それらの御意見を反映した最新のものです。

まず，事務局から，配布資料 2 の報告案についてどのような変更があったのか，その概要について説明をお願いします。

### 武田国語調査官

前回の国語課題小委員会から今日までの間，委員の皆様は何度にもわたって御指導いただきました。そして，メールや電話でのいろいろな御意見を反映したものが今日

の案になっております。大きな変更というものはありません。文言の細かな修正であるとか、今回は目次の最後に「参考資料」と「索引」と書かれてあり、巻末に参考資料として概要ですとか、あるいは名簿、そのほかを付けております。それから、ずっと話題になっております概念図の案についても、それほど大きくは変わっていないのですが、新しいものを御用意しております。目立った変更点というのはその程度です。

沖森主査

ただ今の説明について、直接、何か質問したいということがあれば、お願いいたします。（ 挙手なし。）

では、冒頭から内容を区切りまして御意見を頂きたいと思えます。読み上げることはせずに、事務局から簡単に修正のポイントを説明していただいた後、質問も含め、御意見を頂きたいと思えます。ただ、この部分は読み上げてはどうかということがあれば、御提案いただきたいと思います。

まずは、目次から「 コミュニケーションについての基本的な考え方」まで、ページで言いますと7ページまでについて、修正のポイントを説明していただき、その後、協議に移りたいと思えます。

武田国語調査官

この部分に関して、特に根幹に関わるような変更はありません。その中でも比較的大事なところを御説明したいと思います。

まず、5ページを御覧ください。「(1)分かり合うためのコミュニケーション」の前のリードのところになります。ここに、前回の国語課題小委員会の段階では、コミュニケーションの手段として、「 言葉によるもの、 言葉の周辺にあるもの、 言葉以外のもの」という書き方をしていました。ただ、これは、例えば言語とパラ言語ですとか、そういった細かい話をここでしようとしているわけではないということで、無駄な疑問を抱かれたり、混乱が生じたりするということがないよう、違った整理をいたしました。

2段落目の部分だけ読み上げたいと思えます。「これは、言葉そのもののほか言葉以外の種々の側面、すなわち、話す速度、声の大きさや抑揚、文字の種類や書体など、更には、込められた意図、態度や気持ち、表情、身振り、身なり、その場の雰囲気、手段・媒体、文書等の書式などまでが関わる形で行われる。」

この段階では言語コミュニケーションではなく、コミュニケーションの話をしておりますので、言語コミュニケーションの部分と段差を付けるということも含めて、少し広めにコミュニケーションに関わるものを挙げています。

それから、前回話題になったところで、5ページの中段付近「 書き言葉で伝え合う」のところに、「双方向のやり取り」という言葉があります。これが重言といった捉え方もできるのではないかと御指摘がありました。これは主査打合せ会でも御議論いただいたのですが、「やり取り」は、送る側と受け取る側で終わる可能性もあります。それから、双方向ということをしちゃんと示したいということで、これはこのままにしてはどうかということで、そのままになっております。

7ページを御覧ください。6ページの終わりからですが、「コミュニケーションには、こうすれば必ずうまく行くというような「正解」はない」とあります。この「正解」に当たるところが、これまでどんな言葉がぴったりくるのかということで御検討いただいております。例えば「王道」という言葉ですとか、「定石」という言葉ですとか、この間、お送りした段階と変わっておりますが、今回の案では「正解」という言葉ではどうだろうかということで、「正解」を充てております。

沖森主査

では、冒頭から7ページまでについて自由に御意見を頂きたいと思います。

川瀬委員

修正がいろいろ入っている版のものと見比べながら発見したのですが、このページで言うところの3ページ、「魔法のつえ」のところに蛍光ペンが付いています。これは、言葉再考した方がよいという御判断だったのでしょうか。

武田国語調査官

実は「魔法のつえ」に関して、やはり「つえ」という言葉が入っているので、そこに関して本当にこのままで大丈夫だろうかという、御意見がありました。

入部委員

私からコメントを送らせていただいて、「魔法のつえ」という一つの区切りで考えると、最もポピュラーな『ハリーポッター』の短い剣、ウォンドというのを使う、そのイメージがあります。ただ元々は長いステッキを指していたこともあるので、「つえ」だけを取り出すことはないかと思うのですが、例えば「万能薬」であるとか、単に「魔法」にするとか、そのような言葉に変えて問題がなければ、あえて「つえ」という言葉を入れなくてもいいのではないかと思います。それを反映していただいたということが蛍光ペンの部分です。

川瀬委員

そういう考え方でしたか。「魔法のつえ」という言葉で、その「つえ」に対する不快感があるかもしれないということですか。

受け取り方だとは思いますが、つえ自体が悪いものではないと思うのですが、置き換えるとしたら「万能薬」なのかと思いました。蛍光ペンが付いていたので、多分これは再考しようということなんだろうなと思ひまして。で、もう一回、1の(1)から読んでみると、本文の中では理解できるのですが、ぼんっと見出しで出てくると、意味がちょっと分かりにくいかという気はいたしました。

この報告書、例えば4ページの「近年繰り返し語られてきた」から「そうとは言い難い面もある」までを先に持ってきて、コミュニケーションの能力というのはいろいろな問題を立ちどころに解消する万能薬ではないなど、そういうやり方もありかと思いました。結構唐突な感じで「魔法のつえ」という言葉が出てきて、見出しとして理解していただくためには、もしかしたら、「近年繰り返し」を先に持ってきた上で、コミュニケーション能力さえあれば何でも解決するというわけではないよという並べ方もありなのかと思いました。「魔法のつえ」も、大分前になりますが、そのときふっと口から出た言葉ですので、「万能薬」であっても、何か良い言葉があれば、私個人は特にこだわりはありません。

沖森主査

続きまして、「コミュニケーションをめぐる課題とこれから」について御検討いただくことにいたします。ページで言いますと8~15ページについて、まず修正のポイントを説明いただき、その後、意見交換をしていただきます。では、説明よろしくお願ひします。

武田国語調査官

こちら大きな変更はありません。その中で、比較的大きなものとして14ページを

御覧ください。14 ページの一番下「 考えや気持ちを必要に応じてきちんと言葉にする」という部分ですが、少し文の順番を入れ替えております。前回までは、今二つ目にある「状況によっては」から始まる文が最後に来ておりました。この二つ目の文の最後は「優位な立場にある人や主張が強い人の意向ばかりが通る社会になりかねない。」という形で終わるのですが、こういったことよりも、何を提案したいのかということが最後に来る方がよいだらうということで、順番を変えております。

そのほか、文言の変更ですとか、あるいはより効果的に伝わるような書き方に変えるという、そういった変更だけです。

沖森主査

では、8～15 ページについて自由に御意見を頂きたいと思えます。

( 挙手なし。 )

御意見がないようですので、次に移ります。

それでは、16 ページ以降「 言語コミュニケーションのための具体的方策」の「1 言語コミュニケーションの四つの要素」について御検討いただくことにいたします。ページで言いますと16～26 ページについて、修正のポイントを説明していただき、その後意見交換に移りたいと思えます。では、説明よろしくお願ひいたします。

武田国語調査官

今回、変更が多かったのはこの部分になります。

まず、16 ページを御覧ください。先ほど、コミュニケーションの手段として、言語、言語の周辺、言語以外という整理があったものを少し変えたのに伴ひ、ここでも言語コミュニケーションに限定して、言語コミュニケーションに絞って話をするのですが、その言語コミュニケーション以外のものも言語コミュニケーションに影響力があるんだということを書いておられます。読み上げたいと思えます。16 ページ上から2 段落目、3 段落目、4 段落目を御覧ください。

「その中心となるのは、言葉によって伝え合うこと、つまり「言語コミュニケーション」である。特に、価値観が更に多様化し、共通の基盤が見付けにくくなるおそれのあるこれからの時代においては、互いの異なりを乗り越えて歩み寄ることがこれまで以上に必要である。そのためには、言葉によって考え方や気持ちを表し、互いに対する理解を深めていくことが欠かせない。また、多様な他者との間で起こりやすい誤解を避けるための言葉の使い方を身に付けておく必要もある。さらに、もし誤解が生じてしまった場合には、それを解くのも言葉を中心とするほかない。」

この次が新たに加わったところでは。

「ただし、分かり合うための伝え合ひは、言葉そのものだけでなく、それ以外のものによっても大きく影響を受ける。例えば、話し言葉でのやり取りにおいては、話す速度、声の大きさや抑揚などが、さらに、対面でのやり取りに際しては、表情や姿勢、視線、身振り、加えてその場の雰囲気といったものまでが伝え合ひを左右する。また、書き言葉でのやり取りにおいては、漢字か仮名かといった文字種や選択された書体、手書きならば字の丁寧さなどのほか、文書等の書式、用紙や情報機器の画面の様子といったものまでが影響する。

言語コミュニケーションの在り方について検討するに当たっては、その質を高めていく上で関わりの深い言葉以外の要素についても、視野に入れておくことが大切である。」

つまり、この後挙げていく「正確さ」、「分かりやすさ」、「ふさわしさ」、「敬意と親しさ」の観点の説明の中でも、こういった周辺の部分に触れているということがあります。飽くまでも言語コミュニケーションの問題を中心に置くけれども、その周

辺についても配慮しているといった書きぶりになっております。

18 ページ以降なのですが、前回申し上げたとおり、各観点と具体的な事項の例の後に Q & A のページとの関連付けをしております。ここも後でまた御意見を頂ければと思うのですが、これまでそれぞれの要素が 1 ページに収まっていたのですが、その問いとの関連を示すために、間延びした感じに見えるかもしれないなと思っています。これを 1 ページに収めるというやり方もあるのかもしれませんが、2 ページにわたる形でいいのかどうかということも御意見を頂ければと思います。

それから、図に関しては、後ほど御検討いただきますが、概念図の中からアイコンのような形でそれぞれのところにマーク、印を使ってはどうかという御意見がありましたので、付けております。現段階のものは、私が切り貼りしてペイントで色を塗ったりして作ったもので、まだ拙いものなのですが、これはデザイナーに後ほどきちんとしたものを作ってもらおうと思っています。

そして、もちろん、四つの観点とその具体的な事項に関してはたくさんの御意見を頂いております。そういった御意見に沿って修正を加えております。今日また新たにお気付きになることを是非御指摘いただきたいと思うのですが、事務局から一つ御検討いただきたいと思っている点があります。23 ページを御覧ください。23 ページ「互いの言葉に対して寛容であるか」の一つ目の「 」と一番下の「 」なのですが、「言葉や言葉遣い」という言い方について、前回の国語課題小委員会で少しくどいのではないかという御意見を頂いております。例えば、「言葉が適切であるとは限らない」とか「言葉遣いだけが適切であるとは限らない」のように、どちらかにしてしまうというのもあるのかなと思いつつながら、一応このままにしてあります。ほかの説明のところでは「言葉や言葉遣い」というフレーズが何回か出てまいります。そのことも含めて、このままでいいかどうかということをお聞かせいただければと思います。

26 ページ、最後のところで少し。この四つの要素に関してきちんと締めの部分があってもいいのではないかという御意見がありました。僅か 3 行ですが、この部分を踏まえた 3 行を加えて、次節に移るといったような形になっています。

#### 沖森主査

ただ今の説明にもありましたように、イメージ図につきましてはこの後で別に時間を取って御意見を頂きますので、まずはそれを除いた 16～26 ページ、四つの要素に関するそれぞれの観点と確認事項の部分について御意見を頂きたいと思っております。

#### 滝浦委員

今お話にあった 23 ページの「言葉や言葉遣い」ですが、「言葉遣い」は、硬い言い方をすれば「用法」なんだろうが、ちょっと硬いので、「使い方」、「言葉や使い方」、足りないんだったら「言葉やその使い方」ぐらいでも普通に通ると思います。ただ、「言葉や言葉遣い」の方がやや術語的な感じがあるのは確かです。

#### 田中委員

それに関連して。私は「言葉や言葉遣い」でよいと思います。その上の のところだと「語彙や言葉遣い」になっています。むしろ私は、こっちの「語彙や言葉遣い」の方がどちらかという気になります。急にぽんと「語彙」と出てきて、じゃあ、「言葉」と「語彙」の違いは何かみたいなところが十分に伝わるんだろうかと思うんです。ここは、「語彙を豊富に」みたいな話を中でしているから「語彙」なんだと思いますが、むしろこの「語彙」の方がちょっと唐突なのかと。

また、この近い部分に「語彙や言葉遣い」と「言葉や言葉遣い」といった言い方が二つ入っていて、 と で分かれているのには、意図があると言えばあるんだけど、

その辺のところがちよっと微妙かと思います。

それと、別の部分です。16 ページのところですが、追加された 3 段落目「ただし…」以降の文について。この下から 3 行目の後半「漢字か仮名かといった文字種や選択された書体」とここだけ「選択された」が入っています。全部選択をするものなので、この「選択された」は要らないのではないかと思いました。つまり、漢字か仮名かと文字種も選択するし、それ以外のところも選択している。だけど、なぜかここだけ「選択された書体」になっているから、「文字種や書体」で十分なのではないかと思いました。

それと、レイアウトについてです。

この 16, 17 ページのところ、このイラストが決まっていますが、このイラストを本文に埋め込んで 1 ページに入るんだったら、1 ページにしちゃえばと言った張本人は私なのですが、何か 17 ページの余りが気になります。この図は 17 ページのところの「以下」と、そこまでのところの説明のところの間に両端空白にして入れた方が、ちょうど 2 ページな感じでよいかと思いました。

#### 山元委員

レイアウトの問題で 18~26 ページについてです。確かに武田国語調査官が言われたように間延び感があるというようなイメージがあります。これは見開き 2 ページで一つということを前提にしたレイアウトだと思います。この Q が、「」の行に入るものもあるかな。とにかく 2 ページで一つということを崩して、もう少し詰めた場合、26 ページが繰り上がって、どちらがよいか、やってみて検討された方がよいかと思いました。私も間延び感を感じましたので。

#### 川瀬委員

私も最初見たとき、何かここだけぼかんとしているなどは思いました。今、最初から全部見てくると、前半がとても字が詰まっていて、その後で概念図が出てきて、ちょっとゆったりページになるので、読む人にとってはありかなと。今日見て、これはこれで見開き 2 枚でいいんじゃないのかなと思いました。

ただ、先ほど最後に付け足した部分が何か寂しいとお考えなのであれば、詰めていくのはありだと思います。何か書き込みしてもいいかもしれませんし、これくらいゆとりあってもいいかなという気もしました。

#### 田中委員

26 ページの最後のところの「次節」から始まる 4 行なのですが、結局、27 ページで「本節では」と書いていることとほとんど同じです。したがって、要らないんじゃないかなと思いますが、そうすると 3 行だけここにあって、あんまりだから入っているのかなとか、いろいろ考えなくはないです。内容的には完全にかぶっているのだから、論文だったら絶対ここを削除すると思うところです。

#### 関根委員

今のことに関してですが、26 ページの最後の 4 行をやめるとすると 3 行余ってしまうということについて、その 3 行を 17 ページの「以下」のところの盛り込めばいいのではないのでしょうか。そうすると、17 ページの空白の解消にもなるのではないかと思います。

#### 石黒委員

17 ページの最後のところで、今、関根委員がおっしゃったところが加わったときに

どうなるかなのですが、読んでいて、「以下」のところの二つ目の文なのですが、「観点等は、重要な事柄を参考として示すものであり、全てを網羅するものではない」とあるのですが、何か多少逃げているような気がします。むしろ反対に、「全てを網羅するものではないが、重要な観点を参考として示したものである」ぐらいにした方がいいのではないのでしょうか。

ただ、そうすると「参考とする」と「参考となる」が、もしかして次の文と重なることがより明確に見えてしまうので、少し字句の調整は必要ではないかと思います。

#### 田中委員

23 ページの の二つ目「 インターネットでは、意図しないところまで情報が広がりがねないことを意識している」とは、拡散を開いた形で言ったわけですが、「意図しないところまで」、何か場所性よりは、「意図しない形で情報が広がりがねないことを意識している」の方がよいかと思います。今、余り深く考える時間のないまま、何となく思い付きで言っていますが、「意図しないところまで」というよりはよいかと。若干、「意図しないところまで」というのが気に掛かりました。

#### やすみ委員

もう既にいろいろ皆さんが意見をおっしゃっているところについて私の感想も述べさせていただきます。18 ページからは、やはり隙間が空いているという感じがしなくもないのですが、とても見やすいとは思いますが。表のようにするというのはどうでしょうか。さっき川瀬委員もおっしゃったように、この間に何か書き込みたくなる気持ちも湧いてくるようなスペースもあっていいかと思うんですが、スペースを残しながら、ちょっと一覧の表ですという感じがしていると、前からの流れで読んできた中でメリハリが出てよいのではないかと感じました。

#### 秋山委員

論文の形式でこれが合っているかどうか分からないのですが、読み手として、17 ページのところの最後の段落で、次のそれぞれの4項目について、Q & Aで参考になる問いの番号を付したとあります。ここのところ、「え、どこ？ どこ？」ってなると思います。ここに、例えば括弧を付けて、「(27 ページ～63 ページ)」と入れるのはどうでしょうか。読み手としては、「あ、ここ見ればいいのね」ということが分かれば読みやすいかと思うんです。

18 ページからの部分。間延びという御意見がありました。Q3, 7の位置が、まだ途中ですよね。何となくこの位置で落ち着くかなという印象があります。また、ここを見よというような合図をしたら、矢印を付けて、「Q3, 7」を四角で囲んで、そういう指示をするか、あるいは、やすみ委員がおっしゃったように、これはここを見なさいというのが明らかに分かる表にするか、やはりレイアウトを変えれば、インパクトがあるかなという印象を持ちました。

それと、7 ページに戻ってしまうのですがよろしいでしょうか。

私、メールでお問い合わせしたんですが、7 ページの「正解がないことを分かった上で」という目次的な役割をしている言葉の下の「そうであるとしても」という、この表現、多分、送ってきていただいたのは「とはいえ」という表現だったと思います。

「とはいえ」、「そうはいうものの」でしたか、上の文を受けて、「とはいえ」とか「そうはいうものの」というのが確か2か所ありました。何となくそういうつながり方の文章でいいんでしょうかと、お聞きしたのです。「そうであるとしても」という、こういう見出し的なものがあって、項立てがあって次に文章を付けるときに、こういう使い方はするのかどうなのでしょう。例えば、しっかりと接続の言葉を入れてし

まうのでは駄目なのかと思いました。つまり、「しかし」で合っているかどうか分からないのですが、こうした接続詞では駄目なのかという印象ということです。

沖森主査

今頂いたそれぞれの御意見ですが、もう少し深めておく必要はありますでしょうか。それとも、例えば「語彙」のところですが、「語彙や言葉遣い」、「言葉や言葉遣い」に直すかどうかというような点は、特に詰める必要はないでしょうか。あるいは、このレイアウトについてもここでもう少し深めておく必要はありますでしょうか。

武田国語調査官

御意見を頂戴できるようでしたら頂きたいと思います。

沖森主査

いろいろ頂いた中で私も気になっているのは、23 ページ、「語彙や言葉遣い」というのは、確かに のところではそうなのですが、 のところへ行きますと「言葉や言葉遣い」になっているというのは、確かにこれはややバランスが悪いとは思いますが。「言葉や言葉遣い」でよければ、そちらの方がより柔らかい表現にはなるのかなと私は思うのですが、いかがなものでしょうか。

私が意見を申し上げるのはばかれますが、18 ページ以降のところ、見開きにするかどうか、Q & A に飛ぶという、この示し方をどうするのかという点について、いろいろと組み直して、案をお見せするというのも一つの手ですが、どうでしょう。

武田国語調査官

御意見を頂きましたので、またこちらで調整をして、1 週間以内に委員の皆様にお送りして、国語分科会までにまた主査に御相談するというような形で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

関根委員

もし「言葉や言葉遣い」に統一するのであれば、見出しの方もそうした方がいいのかと思います。「場面や状況に合った言葉遣いになっているか」、「言葉に対して寛容であるか」となっているところは、「言葉や言葉遣い」で統一した方がいいでしょうか。「手段・媒体」と、その後の文章のとおりの言い方になっているので、どうでしょう。

沖森主査

それと、26 ページについての扱いにつきましても、改めて案を考えていただいて、皆様にお諮りするということにしたいと思います。

関根委員

御意見を聞きたいのですが、6 ページの「正解」としたところです。いろいろな意見や案が出てかなり悩まれたところだと思うのですが、例えば「ただ一つだけの正解」というようにする必要はないですか。

「正解」とすると、何か「正解」はなくはない、ただ、これだけだというのはないというニュアンスかなと思うのですが、いかがでしょうか。

田中委員

私も最初「ただ一つだけの正解」でいいかなと思ったんですが、きついかかと。



何か外れているということはきついのかなって。

関根委員

そういうことも含めて、多分、最初のところには鍵括弧が付いていると思うのです。

川瀬委員

もしかしたら、鍵括弧、「正解」の方じゃなくて、「こうすれば必ずうまく行く」の方に鍵括弧を付けた方がニュアンスは伝わるのかなという気もします。

「こうすれば必ず」って、いわゆる絶対正解というか、マスターキーのような感じですね。「公式」という言葉もありましたが、「公式」も結構よいなと思っていました。逆に、鍵括弧で、「「こうすれば必ずうまく行く」というような正解はない」とつなげれば、「必ず」の方が目立つかという気はします。

沖森主査

「正解」は、学生たちは、正解は一つだけだということで、どれが正解かというのを常に問題にします。大体一つだと考えることが多いと思うのですが、でも、数学なんかでは幾つもの正解もあり得るわけで、どちらで取るかというのはなかなか、鍵括弧を付けたところで難しいところではあります。6ページの下から3行目のところなのですが、よろしいですか。

川瀬委員

「万能の正解」とかというのはなしですか。かえって分からないかな。ニュアンスの問題ですね。

関根委員

その「正解」ということが、今、ただ一つだけというニュアンスをみんなが強く持っているのであれば、これでよいと思います。

武田国語調査官

では、少し工夫をして、またここも一緒に御提案するようにいたします。

沖森主査

続きまして、イメージ図についての御意見を頂きたいと思います。参考資料2に別の候補も示されております。これらについて簡単に説明していただきたいと思います。

武田国語調査官

前回いろいろと御意見を頂きまして、また、事務局の中でももう少し具体的に詰めたところでデザイナーに依頼した方がよいだろうということで、事務局で作ったものをお送りして御意見を頂いた結果が今日のものであります。基本的にはこの案のどちらかを基にして微修正で済ませたいと考えております。

それで、ポイントなのですが、一つは、顔の表情があるか、ないかです。ピクトグラムとして作ってあるものが上で、下は表情が入っているという、その違いになります。それで、今回、案の方には上のものを入れておりますが、確かに役所が出すものとして比較的無難なのはピクトグラムの方かもしれません。ただ、ピクトグラムでは十分にこの四つの要素のニュアンスが伝わらないということであれば、また下の方も考える必要があるかと思っております。

それから、前回からの絵柄の変更点としては、「ふさわしさ」のところは、前は丸

と、手で拒絶、拒否のような絵柄があったのですが、それぞれ、ポジティブな積極的な方だけを残せばいいのではないかという御意見がありましたので、「ふさわしさ」も丸という形だけを残しております。

今日頂きたい御意見は、どちらの方がよいかということと、微修正するところがあるとすれば、どういった点かということです。先ほども少し申し上げましたが、この四つの絵柄についてはアイコンにして、ほかのところでも使用したいと思っています。

#### 沖森主査

それでは、ただ今の説明にありましたように、イメージ図について御意見を頂きたいと思います。

#### 入部委員

上下比べてみますと、一番大きな違いは「分かりやすさ」だと思います。「分かりやすさ」の上のピクトグラムの方は、手から煙が出ているって思う人はいないと思うのですが、これで、あ、なるほどねというのを表しているのに対して、下は手がなくて表情で表しています。「分かりやすさ」について、どちらの方が分かりやすい表現になっているのかということで考えますと、下の方が分かりやすいかと思うので、こちらの方に1票ということです。

#### 川瀬委員

ピクトグラムに1票です。下の方のニコちゃん、かわいいのですが、顔が一杯で何か見づらいという感じがあります。対してピクトグラムの方は、にこっとしているのは真ん中の中央で考えている人だけで、ほかは表情がありません。下のニコちゃんだとみんなが笑っているので、ちょっと分かりにくいかなと。

あと、アイコンとしてばらしたときに、多少子供っぽいんじゃないのかなという印象がありました。また、是非アイコンとしてばらすときには、字を外していただくとよろしいかなと思います。

#### 滝浦委員

質問なのですが、「ふさわしさ」の図案として、もう一つ、「いいね」っぽいのがあったかと思うのですが、あれが却下されたのはなぜでしょうか。

あっちの方がよいと思ったのは、この絵が大分大げさなので、意味が結構強いかと思ったからです。そこまで積極的というよりは、やり取りのベースとして違和感がないというのがこの「ふさわしさ」だと考えたときに、絵が積極的に過ぎるのかなという意見をお送りしたのですが、どのような経緯だったか伺えたらと思います。

#### 武田国語調査官

「いいね」の形なのですが、手話の中で男性という意味を表すという、そういった御指摘がありました。また、それこそSNSの中での「いいね」のマークと一緒になので、ここはちょっと違ったものの方がよいのではないかという御意見もありました。それで、今回は、こちらからお尋ねしておいて申し訳ありませんが、落としたという経緯がございます。

#### 関根委員

私も、中央に顔が付くと、ほかのには顔がない方がよいかと思います。この前の観覧車のようなものであると、それぞれに顔があった方がよいかと思ったのですが...

それから、分かりやすさの煙みたいなもの、これはなくてもいいかと。なかったら分

かりにくいでしょうか。

田中委員

いや、これがあるから分かると思うのですが…。

関根委員

もしこれだったらこれはなくてもいいと思います。

それからもう一つ、「敬意と親しさ」のこの矢印は、言っていることは分かるのですが、これも図柄として必要かどうか。上のメジャーみたいなもので距離感を表していて、しかも、ハートの動きがあるのでやり取りしているということが分かります。あるいは、矢印がなくても、なるべくシンプルな方がよいと思うものですから、このくらいであれば取るだけなので、そういう図柄を出していただいて、分かるかどうか判断してみたらどうかと思いました。

石黒委員

元々はピクトグラムがよいと思っていたのですが、ちょっと下のニコちゃんも捨て難いなど。それ自体はどちらもいいという意見です。上と下でどちらを選ぶにしてもなのですが、まず上の場合ですと、「ふさわしさ」の人が、ぱっと見た瞬間に、人間だと思って見れば見えるのですが、何か鍵穴のように見てしまい、人間に見えてこないということがあります。これ、結局、「分かりやすさ」とか「敬意と親しさ」の場合は、元々の考えている本人の手と同じような手です。でも、「ふさわしさ」だけは色が違うし、手の形も違うので、この本人と思えない感じがあって、ちょっとその辺で誤解を招くのかなというのが一つありました。

一方、下の方なのですが、またこれも「ふさわしさ」の方を見ていると、もちろん、丸って出しているというのは見れば分かるのですが、別の見方をしてしまうと、輪っかの中に顔があるようにも見えてしまいます。「ふさわしさ」とか「分かりやすさ」の場合、字が下に来てしまっているのでも、上と同じように、上に文字を持って行って、もう少し胴を長くしないと、別の記号として見えてしまうかなと思いました。

やすみ委員

私も、どちらも捨て難いと思って拝見しているのですが、ちょっと遠くに離して見たりすると、全部、全体的に丸で作られているデザインなんだというのが分かります。そうすると、ピクトグラムの方は本当に丸だらけで、表情がありません。下のニコちゃんはそれに目と口が付いているので表情があるということで、メリハリがあってよいと思います。丸いものが一杯なんだけど、これは顔ですとか、何か困っている丸ですとかというのが分かるので、どちらかということニコちゃんの方がスッキリしてよいと思います。

山元委員

下のニコちゃんに1票というのが結論です。例えばニコちゃんの方は「敬意と親しさ」の場合、目と口があるとお互い向き合っている感が出ますが、ピクトグラムの方だと、特に右側のものが正面を向いているような印象があります。お互い向き合って「敬意と親しさ」の距離を取り合っているんだというメッセージがより強く伝わるのは下の方というのが理由です。

もう一つは、「ふさわしさ」は、石黒委員が御指摘したように、何も無いピクトの場合は、人に見えないような感じがします。手が長いからでしょうか。分からないのですが、「ふさわしさ」とは、もうちょっと何か状況を表すサインがあって、それで納得と

いうなずきというような、何かそういう良いイメージのものがなくと...、案はないのですが、そんな印象を持ちました。

#### 入部委員

以前、国語分科会で、小学生とか中学生とか学校向けに、この報告書をちょっと簡略化して提示する方がいいんじゃないかという御意見があったように思います。そういう予定があるのかどうか、可能性があるのかどうかということも、どちらを選ぶかということにも関係してくるのかと思うのですが、いかがでしょうか。

#### 武田国語調査官

リーフレットのようなものは是非作りたいと思っています。どこまで配れるかということはあるのですが、少なくとも、各都道府県の教育委員会から各市町村の教育委員会ぐらいまでは下ろしてもらえようことは計画しております。

#### 田中委員

私は、例えば 16, 17 ページのところの中に、最初はものすごく大きく入れるといった案だったので、その段階であれば表情のあるニコちゃんでもいいかなと思っていました。ただ、サイズをダウンすること、それから、切り出して各 4 項目のチェック項目にアイコンとして入れることにしたので、ピクトグラムの方がよいと思います。

ニコちゃんの方もかわいらしくてよいと思うのですが、そんなににこにこせんでもええやろみたいな気持ちがあります。それで、入部委員がおっしゃっていたパンフレットに際しては、また別の形のイラストを考えるとといったことも当初からあったような気がしますので、例えばそれは小学生なら小学生用にとか、大人なら大人用に、一応多分これは大人用なんだと思うので、そういう点においても私はピクトグラムに、持ち票が 1 票ですが、100 票ぐらいと思っています。

#### 川瀬委員

しつこくピクトグラム派なのですが、「ふさわしさ」は動きにしにくいものなので、どんな動きを持ってきても多分しっくりこないと思います。「分かりやすい」だって、この手の「ぼん」の煙がありか、なしかなども、これも好みの問題でしょう。

恐らく、「ふさわしさ」で吹き出しの吹き出す丸の部分がありますが、それが人に掛かっています。この丸がもうちょっとどっちか行けば、人に見えるんじゃないかなと、また、手がもうちょっと短くてもいいのかなと思います。そして、「ふさわしさ」だけ首があってもいいのかなと。何か人に見えるような微修正をしていただければと思いますので。

そもそも概念図ですので、この絵だけで全てを語り尽くそうとするのは無理だと思いますし、そういう意味では、見た人がいかようにも判断できるピクトグラムに、1 票入れさせていただきます。

#### 塩田委員

これは確認ですが、Q10 で、「！」は公用文や法令では使わないとありますが、これは公用文や法令ではないということですね。

#### 武田国語調査官

はい。

#### 沖森主査

報告書の中身というものではないのですが、なかなか意見がまとまらない段階です。私の印象だと4対3ぐらいかという感じがするのですが、いかがなものでしょう。いっそのこと5対2といったら問題ないと思ったのですが...

武田国語調査官

御意見がいろいろありますので、また調整をして、主査と御相談して、今度、「これでいいですか」という形で事務局からお願いをしたいと思います。お気持ちに沿えない方もいらっしゃるかもしれませんが、御了承いただければと思います。

沖森主査

いろいろ白熱した議論に入りましたが、ひとまずイメージ図につきましてはこの辺りでよろしいでしょうか。

それでは続きまして、27ページになりますが、「2 様々な言語コミュニケーション(Q & A)」の部分について、27~62ページの修正のポイントについて説明していただき、その後、御発言、御意見を頂きたいと思います。

武田国語調査官

27ページを御覧ください。七つのアイコンを用意して説明をしています。皆様にお送りした時点では、「少し詳しく」の次が「もっと詳しく」というものでした。前回の国語課題小委員会で頂いた指摘が十分に反映できないままお送りしてしまったのですが、この「少し詳しく」の次を「一歩進めて」と変えました。余り内容として変わらないかもしれませんが、詳しさの度合いがちゃんと深まっているのか、もっと深まっているのかということが言われないように、「一歩進めて」といたしました。

27ページの下に、「国語に関する世論調査」について引用しますということを書いていたのですが、その後、以前ちょっと御紹介をしたウェブ調査、新しい問いとしては3問だけだったのですが、その3問についてもここで使っていますということをはっきり書いています。そして最後の参考資料のところ今日この段階では1ページ分入れております。これは御指摘いただいた部分で、大変有り難い御指摘でした。

中に入りまして、Q1からQ35まであるわけで、それぞれ細かい修正はいろいろしておりますが、大きく内容を変えたことはありません。ただ、四つの要素と、それぞれの観点のページと、ちゃんと合うように部分的に直したりしています。

少し大きく変えたところが一つ、Q31、58ページです。これも御指摘を頂いて、それに従って直したのですが、前回までは、「少し詳しく」と「一歩進めて」の内容が逆でした。「敬語の指針」で知識を養うを進めると、「敬語の型や敬語語彙」という言葉を使っていたのですが、そういったものを身に付けるとなっていたのですが、逆にしました。具体的なものを示して、そして「敬語の指針」を勉強してくださいという順番になっています。

いろいろとQ & Aに関しても細かなところまで御覧いただいて、御指摘を頂いて、大変に有り難く感じております。

沖森主査

質問を含めまして、自由に御意見を頂きたいと思います。よろしく願いいたします。どの点からでも結構です。

川瀬委員

50ページのQ23です。大人向けの文章なので、この表現の方が分かりやすいとも思ったのですが、「少し詳しく」のところで、「段階的に抽象度を下げる」という表現が

あります。「抽象度を下げる」のと「具体的になる」だと、どっちが分かりやすいかなと思っておりました。それで読み進めていった最後の裁判員裁判のところの「冒頭陳述」とか「論告・弁論」とか難しい言葉の後は、「抽象度を4段階で低くしていく」は、これはありだと思のですが、「段階的に抽象度を下げていく」というよりは、「段階的に具体的になるように文章や話を組み立てる」の方が、一般的には分かりやすいという気がいたしました。

#### 田中委員

さっきの「正解」の話との絡みなのですが、27ページの2段落目のところでこうなっています。「ただし、ここに示す回答が唯一の正解というわけではなく」、その1行下、「そもそも、言語コミュニケーションには常に通用する正解があるわけではない」と言っていて、何かそろえた方がいいのかなと。どうそろえるのかは悩ましいと思いますが、そろえた方がいいのかなと思いました。

#### 石黒委員

グラフについてです。例えば32ページを見ますと、五つぐらい分かれています。どの図にも通用することなのですが、「そう思う」とか「ややそう思う」とか、もうちょっと分かりやすいとよいと思います。つまり、「そう思う」の左にある四角が小さいと、上の模様がよく分からないので、もうちょっと模様を大きく全体的にしていただけると上と下の対応がよく分かると思いました。

#### 川瀬委員

文字そのものに枠付けたらどうですか。「ややそう思う」のところの字の前に、小さい四角があって、そこに模様を付けていますが、「そう思う」という言葉自体を枠囲みしてしまって、そこに模様を付けてしまう方が、見た目はもしかしたら分かりやすいかもしれないです。

#### 武田国語調査官

技術的な問題があると思うのですが、極力努力したいと思います。

#### 塩田委員

今まで全く気付かずにいて、これまでの報告書もそうだったということで統一するならそれなのですが、例えば29ページの図にある「 $n = 2,015$ 」というのは、これは私、全くこれを普通に見ていたのですが、どうでしょう。「回答者数」などにした方が分かりやすいでしょうか。多分ずっと今までの報告書は「 $n$ 」だったと思います。「 $n$ 」だと「 $N$ 」と考える人もいるかもしれないので、もしできるようだったら今回の報告書はそうするというのもあるかもしれないなと思いました。

#### 武田国語調査官

ありがとうございます。少なくとも、例えば凡例というか、「 $n$ 」が何であるかということをも明記するようにしたいと思います。

#### 沖森主査

次に進めてまいりたいと思います。63ページの「終わりに」と参考資料の部分について御検討いただきたいと思います。63ページ以降の部分ですが、今回、初めてお示ししました。そこで、ポイントを説明していただき、御質問を含めて御発言いただきたいと思います。

武田国語調査官

まず、63 ページです。前回の国語課題小委員会で、「終わりに」というものがあったてもいいのではないかという御提案がありました。これまでの答申などにも「終わりに」があるものもございますので、1 ページ分付け足しました。お送りしたので、お読みいただいたと思います。それで、今日お示ししたものは、御意見を頂いておりますので多少変更が入っておりますが、大きな変更はありません。

それから、67 ページを御覧ください。こういった報告や答申には大体 1 ~ 2 ページぐらいの概要が付きます。まだ十分に詰め切れたものではないのですが、こういった概要を作成しました。コミュニケーションをどのように国語分科会で捉えているのか、そのうちのどこにコミュニケーションの問題を絞って考えているのか、今後の課題あるいは提案としてはどういったことがあるのか、そして四つの要素を示すというような概要になっています。場合によっては、この下に、あるいは別のページを設けてということかもしれませんが、Q & A の例を挙げるということもあるかと思っております。これについても、是非御意見を頂ければと思っております。

68, 69 ページと名簿があります。

70 ページからは審議経過が、まとめてあります。

73 ページは先ほど申し上げたウェブ調査の結果です。現段階では 1 ページですが、もう少し増えるかもしれません。

74, 75 ページに、前回までは扉のところにありました Q & A の問いの一覧を配置しました。また、それぞれの問いの概要があった方がいいのではないかという御意見もありましたので、こちらにそれを入れました。

参考資料については、この後また多少変わるかもしれません。また、今日はお出しできなかったのですが、この後、索引を作って付けようと思っております。

沖森主査

自由に御意見を頂きたいと思っております。

川瀬委員

67 ページの概要のところですが、この後、精査なさるという前提でお話しさせていただきませんが、配布されたときに恐らく大概の人が見るのがまずこれだと思います。何度も同じ話を振っていると思うのですが、まず一番上に何とかの概要があり、四角の枠の中に「分かり合うためのコミュニケーション」があり、その間にも似たような言葉があります。「「分かり合うための言語コミュニケーション(報告)」の概要」の下の 2 行をこれだけ出すと、サマリーでぼんとこの言葉が出てくると、結構何か頑張ったんだけど、できませんでした、といったニュアンスに見えないかなという気がしますので、この 2 行、要らないんじゃないかという気がします。

四角枠の中の「分かり合うためのコミュニケーション」という言葉も要らないでしょうし、「複数の人が」と始めて、「その理解を深めるために」とか「ための課題」という形にして、前の図では 1 から 6 になっていますが、四角が並んでくる。

その下の矢印の意味もよく分からないです。この矢印もあんまり意味がないという気がします。

四つの要素の説明の四角枠の中は、要素の説明ですので、「何とかしているか」の「か」は要らないと思っております。

四つの要素は、例えば「分かりやすさ」の字は、この場所もどっちがいいのか分かりませんが、この四角が「分かりやすさ」の枠ですよという文字、場所にもっと持っていた方がよいと思っております。例えば「分かりやすさ」、「相手が理解できる言葉を使う」

でよいと思います。又は「...使っている」とか。

同じように、チェック項目ではないので、全てに対して「か」を外した方がよいと思います。もし「魔法のつえ」的なニュアンスをこの概要の中に入れるとしたら、最後かだと思います。全てに、「コミュニケーションには常に通用する公式はない」みたいなものがあつた上で、「四つの要素を意識して、目的に応じてバランスを調整する」とか「してほしい」とか「すべき」とか、結論としてこっちにまとめた方がよいという気がしました。

これもサマリーなので好みがいろいろあると思いますが、私の感覚ではそんな感じですか。

#### 山元委員

ほぼ同じことですが、最初の2行は、否定的な言い方になっているので、先ほど川瀬委員が言われたように、分かりませんでした的なニュアンスが入ってしまうので、ない方がよいと思います。

もっと積極的な感じで提案という意味を出すために、例えば矢印の下のところ、「言語コミュニケーションを円滑に進めるための四つの要素」というように、ちょっとアクティブに提案をするのはよいかなと思います。

それから、これも川瀬委員と一緒になのですが、最後のところ、「バランスを調整」の後に「する」とか入れた方が、積極的な提案という感じになると思います。

#### 石黒委員

今のお二方とほぼ重なるのですが、どんなふうにこの報告を積極的に位置付けるかということ考えた場合に、やはり何か一つ、この四つの要素を示し得たということを書いていいのかと思うんです。例えば、「終わりに」のところでも気になる言葉があります。「終わりに」のちょうど中ほどです、3段落目の終わり辺りに「選択肢の一つとして受け止められることを期待している」とあります。もちろん、私たちが何か押し付けようということは避けた方が、絶対それはよいと思います。ただ、少なくともコミュニケーションを考えていく上で、こんなふうに言語コミュニケーションに関してはこういう四つの観点を示して、それによって、何か物差しというか、定規というか、整理をする時の見方みたいな、そういう尺度を提案して、それに基づいて考えると、よりコミュニケーションを考える上での見通しが良くなるといったことを何か書いていただけたらいいと思いました。

「選択肢の一つ」は一つだと思うのですが、そういうようなコミュニケーションの見通しを良くする物差しにはいろいろあると思うのです。しかし、その整理の仕方の比較的有力なと言うとちょっと自画自賛になってしまうのかもしれませんが、選択肢の一つなのかと感じています。

#### 入部委員

社会人基礎力の場合は、三つの能力、12の要素という、そういうフレーズで出ることが多いのですが、もう少しパンチを効かせて、「四つの要素、20の観点」などにしてみてはいかがかと思います。せっかくきれいに20という数、5個ずつありますので、そのようにすると注目度もアップするのかなと思います。

#### 滝浦委員

最後の「終わりに」ですが、ずっとこうやってきて、最後に自己評価と言うか、こういうことをやったつもりですということを書くわけですね。さっき石黒委員が言われましたけど、四つの要素を出したということ自体に意味があるんだということをもう



ちょっと強く言わないと、普通の人には、これ、普通に見ると、「あ、こういうのがあるよね、まあ当然じゃん」と受け取られてしまう可能性は多分高いです。

でも、実際には、戦後すぐの「これからの敬語」から始まって、これまでどう捉えられてきて、どのようにこういう提言みたいなものがどこに力を入れてきたかという歴史があって、その先にこれがあります。だから、どこまで踏み込めるかは分かりませんが、これまでコミュニケーションと言うと、こういう側面、こういう側面が焦点を浴びていたけれども、実はというのがあるわけですね。そういうところをどこまで書けるかですが、ちょっと入れて、そうじゃないところも、現代において、またこれからにおいて重要だということをむしろ積極的に意識したいというのがこの一つのコンセプトなんだということ、もうちょっと入れた方がよいと思いました。

#### 沖森主査

私から一言だけ申し上げると、67ページの概要のところ、やはり「分かり合うための言語コミュニケーション」というのがテーマになっていますので、この「分かり合うためのコミュニケーション」から下の「言語コミュニケーション」へのこの過程が、なぜ分かり合うための言語コミュニケーションが重要なのかという点が抜けているかと思えます。なぜそこを取り出してこの報告を出しているのかが分かるようにしていただければと思います。「これからの時代のコミュニケーション」の中にももちろんそれが入ってはいるのですが、特にここで取り上げたのは言語コミュニケーションである、そしてそれはこういう理由からだというのが分かった方がよいのかなと、そんな印象を持ちました。

さて、報告書の案につきましては一応75ページまでということで御検討いただいたわけですが、全体を通して、またそのほかにも何かございましたら、御発言いただきたいと思えます。

#### 石黒委員

72ページなのですが、第3回が多分29年なのかなと思います。御確認ください。

#### 田中委員

73ページに例で挙げてくださっているウェブ調査の結果の示し方なのですが、ちょっとごちゃごちゃして見にくいと思えます。例えば問1でも問3でも、一番上のところに何か帯グラフ状のものを作って、その中に字を埋め込んでいますが、すごく見にくい。特に問3のところの「この目的で人とやり取りすることはない」の部分はとても見にくいと思うので、別の表現方法を全体として探った方がよいと思えます。

#### 塩田委員

ここの図は確かに、問2も実数を入れるんだったら、横の線は別に要らないような気がします。

#### 田中委員

何ページぐらい取ることができるのかだと思うのですが、全体の絵のところは分かるけれど、例えば10代刻みにしたりとかしているのって、相当少ないカテゴリーもあるわけですね。だから、ページ数との相談だと思いますが、やはりそこはデータとして出す以上はちゃんとした方がよいと思えます。

#### 関根委員

「魔法のつえ」について、私はちょっと考えがまとまらないのですが、意見だけ。「つ

え」というのは、そもそも誰しもが使うものです。それから、「魔法のつえ」という言い方にすれば、これは全く一つのおとぎ話の世界の比喻だと思うのですが、もちろん、先ほど出されたような懸念に配慮することは検討してもいいと思います。

ただ、もう一つ、「万能薬」という例えについてですが、どういうものに例えるかということに関わってくるのですが、「魔法のつえ」というのはあり得ないものですが、「万能薬」は、かつてはそういうものがあると信じられていて、今も信じている人がいるかもしれない。つまり、科学的なものを例えると危険性がある。

昔、病院の言葉の仕事をやっているときに、「活火山」、「死火山」と例えたことがありました。ある病気のことについてで、「死火山」というのはないんだということだったので、「死火山」とか「休火山」とかって例えをすると、病気が発現するかどうかというので非常に分かりやすいのですが、そもそもその例えの基になったものが科学的じゃないということに気が付いたことがあって、だから、その「万能薬」みたいな例えも、これも問題はないとは思いますが、そういう意味での気を付けるべきことがあるかなと思っています。

#### 滝浦委員

同じことに関してですが、この「正解」のところに入る言葉というのが多分2系列あって、一つは、この「正解」とか「王道」とか「定石」という系列で、もう一つが「魔法のつえ」とか「万能薬」という系列で、実は系列が違うと思います。

それは何が違うかという、多分結び付く主語が違って、「魔法のつえ」とか「万能薬」は「コミュニケーション力とは」みたいなもので、コミュニケーション力というのはすごく言われて、それがあるととても良いように言われるけど、それが「魔法のつえ」なわけではないし、「万能薬」なわけではないという、そっち系列の言葉だと思います。

でも、ここは「コミュニケーションには」とあり、コミュニケーションという、一番広くくりの、そこで人々がインタラクションする場じゃないですが、プラットフォームみたいなことが主語として考えられています。そっちからすると、結び付きやすいのは「王道」とか「定石」とか「正解」とか、そっち系の言葉かと思います。

だから、この文章であれば、今のこの「正解」で一応落ち着くのではないか。さっきの「魔法のつえ」問題というのは、またちょっと別の観点として指摘いたします。コミュニケーション力みたいなことをどこかで書くのであれば、「それがあったからといって全部できるわけじゃないよ」という言い方になるのかと思いました。

#### 川瀬委員

3ページの「コミュニケーションは「魔法のつえ」ではない」の、「コミュニケーションは」じゃなくて、「コミュニケーション能力は」だと、もうちょっとぴんとくるのかなと。本文のところは確かに「コミュニケーションに関する力は」となっているので、「コミュニケーション＝「魔法のつえ」」と見えてしまう部分もあります。

#### 滝浦委員

おかしいですね。

#### 川瀬委員

コミュニケーション能力があれば何でも解決するわけではないという意味を入れるには、この四角の文字に「能力」とかが入れば大分ニュアンスは違うのかなと。それでも「魔法のつえ」でよいのかどうなのかというのは悩みます。

武田国語調査官

今の点なのですが、「コミュニケーション能力」、それから「コミュニケーション力」という言葉がある程度避けているところがあります。特に「能力」という言葉を使うときには、経団連の調査で使われている言葉として、この報告では使っている面があります。常に鍵括弧で出てきています。

「コミュニケーション力」という言葉も、Q & Aの方には出てくるのですが、これは調査などとの関連でそのまま使っております。ほかのところでは、「コミュ力」というような形で鍵括弧付きであったり、あるいは3ページでも「コミュニケーションに関する力」という言い方にしていたりします。ここの「コミュニケーションは「魔法のつえ」ではない」とも、その辺りが意識されて今までこの形で来ているのですが、今の御意見を受けまして、ここも調整が必要かと思いました。

塩田委員

27ページの下線が引いてあるところ、「文化庁ウェブサイト「国語に関する世論調査」で公開している」の下の方が空いているから、URLを示したりした方がよいかもできません。

滝浦委員

Q & Aの内容に関して質問なのですが、以前のどこかのバージョンか何かで、相手によって、相手が違えばコミュニケーションの仕方が変わるみたいな話が出てきていたと思います。今見ると、なくなったんでしょうか、元々なかったんでしょうか。何か「国語に関する世論調査」のグラフがあって、60代以上になると相手が誰でもコミュニケーションの仕方を変えないというのが出てきて、通じなければ向こうが悪いと思うというのが出てきてというのは、グラフと一緒に載せた方がよいかと。要は、割と年齢の人がコミュニケーションについて非常に固定的なイメージを持っているけれども、それでいいのかという問題がありますよねという問題提起はしてもいいと思っていたのですが、そういうのはありませんでしたでしょうか。

武田国語調査官

Q & Aの方ではなく、9ページから10ページに掛けての現代の課題の中で、若者は相手に合わせる傾向があって、逆にというようなところがございます。当初は、この最初のところにも「国語に関する世論調査」の結果を引っ張って書いていた時期があったので、恐らく御指摘のところはその辺りの時期のものだと思います。現段階ではグラフは落ちています。

滝浦委員

Q31の敬語のところ、58ページですが、誤用の話で、「お（御）～する」の形を尊敬語と混同して使うという話で、「現時点では、誤用とみなされるおそれがあることに留意しておくべきでしょう」と、非常に慎重な表現をしています。これを、現時点では、規範的には誤用とするべきであると言うべきなのか、いや、もうそうは言えないでしょうということまで来ていると言うべきなのか非常に悩むところがあります。「国語に関する世論調査」の結果をもう一回見たのですが、49対44とか、もうそれぐらいのレベルです。いわゆる誤用の「御利用していますか」みたいな言い回しでさえ、「間違っている」という人は49%程度、「正しい」という人は44%ぐらい、間もなく逆転するでしょうということくらいをどう表現するのか、すごい難しいと思うのですが、これについてお考えはありますかでしょうか。

#### 武田国語調査官

一つは、「敬語の指針」の中では誤用と言いますか、適切でない形として扱っていませんので、そこによった形で示しています。

#### 滝浦委員

でも、そこからすると、それよりも現状にむしろ近い書き方をされていますよね。

#### 武田国語調査官

寛容さといったことをこの報告はうたっていますので、それに合わせ、配慮してということですから、もしも余計な何かメッセージになってしまうのであれば、この部分は落とすなり、あるいはもっとはっきり、「敬語の指針」ではこう書いていますというような書き方にするというやり方もあるかもしれません。

#### 滝浦委員

だから、どう書くのがよいのは本当に難しいと思うのですが、これはある意味、とても先進的な表現だと思いました。ただ、見る人が見たらこれに文句を言ってくる可能性はあるだろう、「これは誤用なんだ」とか、「なぜこんな変な言い方するんだ」と言ってきたような感じもするのです。ただ、現実にはもう誤用って言えないくらいに使われているので、というところがあります。

だから、確かに一つの考えは、今おっしゃったように、「敬語の指針」では誤用ということになっていますという書き方もあるのですが、あえて一步踏み出されたというまます示してほしいという気持ちもあり…。非常に難しいのですが、分かりました。

#### 石黒委員

細かいことばかりで恐縮なのですが、まず2ページ、「はじめに」の下から2行目の「仮題」と書いてあるのは、「報告」ですね。

それから、気になるのがQ & Aの「参考」の書き方なのですが、例えば31ページを御覧いただくと、「参考」のところ、普通の明朝体で、線が引いてある範囲がタイトルなんですね。で、その次も明朝体です。32ページも。ところが、例えば34ページになるとゴシック体になっています。

その後、例えば47ページなのですが、文化庁のものは下線がないんだけど、47ページの国立国語研究所の方は下線があるというようなことがあります。

あと、最後の62ページの「参考」も、下の部分が右にずれているので、この「参考」の書き方の統一は必要かと思いました。

#### 塩田委員

55ページの「視点を変えて」に「私的な言葉が衆目の対象に」とあります。「衆目にさらされる」なら私はなじんでいるのですが、「衆目の対象」というのは余り聞いたことがありません。言い方が難しいのですが…。

#### 川瀬委員

言い掛かりくさいかもしれないのですが、27ページのアイコンの文言を調整していただいたところです。「少し詳しく」と「一歩進めて」は余り変わりがないような気がします。「少し詳しく」、「更に進めて」とか、むしろ「もっと深く」の方がよいかもしれません。「少し詳しく」は補足です。短い、ショートアンサーの補足なので、どれが一番距離感というか、深みがあるのかは分からないのですが、「少し詳しく」と「一歩進めて」は近いような気がしました。

田中委員

前は、「もっと深く」とか何かだったような気がしますが。

滝浦委員

前に、「深く」だったのを、深まっているとは限らないからということでこれに戻したような気がします。

田中委員

紆余曲折あってここに至ったような。

川瀬委員

なるほど。「少し」と「一歩」は似ているなって感じがしたので。

関根委員

元々は、「少し詳しく」になって、それで「更に詳しく」と、その段階を経るために最初が「少し」だったんですね。

こうなると、「少し」がちょっと浮いちゃうというのも御指摘のとおりで、そうなる  
と、この部分は、例えばこの「少し詳しく」は、最初、全部「少し詳しく」になって  
います。だから、これ自体をやめてしまうという手もあるかとは思いました。最初、シ  
ョートアンサーがあって、それで、その解説だということが読んでいけば分かるの  
で、もちろんレイアウトに工夫する必要があると思いますが、「一歩進めて」とか「具  
体例を見る」というので補足していくという見せ方もあると思います。ショートアン  
サーの次に解説があり、「詳しく」というのは当たり前ですから。

川瀬委員

全部に付いているのであれば、アイコンを付ける意味がなくなるというのは、確か  
におっしゃるとおりだなと思います。

関根委員

例えば、ちょっと無味乾燥かもしれないけど、ただの「解説」とか。そういう無難な  
示し方、見出しにする手もあるし、何もなくて、何かちょっと飾りみたいな形で置いて  
おくということも考え方としてはあり得ます。

滝浦委員

今のところ、例えば、「少し詳しく」を「具体的に」という言い方に置き換えること  
はできますか。要するに、問いがあって、それに対するとりあえずの答えなわけです  
が、大体問いはちょっと抽象的だったり、ぼんやりしていたりするのを、「それを具体  
的に言いますとね」と言って答えています。だから、ちょっと角度を変えた名称を考え  
られるんじゃないかという気がしました。

田中委員

でも、「データを見る」とか、「具体例を見る」とかがあります。

滝浦委員

「具体例を見る」、ありますね。では、撤回します。

鈴木委員

「一歩進めて」って、必ず「少し詳しく」の後に来ています。だから、その「少し詳しく」の文言を確かにちょっと工夫すれば、「一歩進めて」はこれでいいような気がします。

関根委員

18 ページからのところで、間が開いているというのをずっとどうしたらいいか考えているのですが、そもそも、1 ページないし見開きにした方がよいというのは、その方が見やすいからという観点で、かなり最初の頃にしたと思います。このようにアイコンも入ってまとまった段階でもう一度、追い込んだバージョンを作っていただいてもいいかなと思います。それでどのように感じるか、あるいはそれほど見にくくないかもしれない。何となく今のままだと、すかすかに思われるのもしゃくなので、もう一度、どうやって埋めればいいのかと思って…。

多分これは、現状で埋めていくと中途半端なところになってしまうでしょう。あと、Qを言うのであれば、Qのところに、一口メモみたいな感じで入れて埋めるという手もあるかなとも思いました。ただそれも、Qの数が違うのでなかなかどうか。例えば「仕事などにおいてふだんから必要となる語彙に精通している。」はQ3で、Q3を見ると、例えば「それぞれの分野に役立つもの」といった見出しを入れていく手もあるかなとも思いました。数が違うので、それも難しいかなとも思うし、発想を変えて1回追い込んでみて、どんな感じかを見ていいんじゃないかなとも思いました。

鈴木委員

今の御意見に関連なのですが、余り余白があることを意識しなくてもいい気もします。このレイアウト、もちろん1回やってみたらどうなるかなというのはあると思うのですが、例えば章の終わりの余白というのは、そのこと自体を気にしなくてもいいような気がします。

例えばページ数に制限があるわけではないですよね。必ず256ページにするとか、そういう制限があるわけではない冊子に作ると思うので、そこは気にしなくてもいいかと。むしろ余白がある方が、章が変わったなど、読んだときにそのようなことにもなりますし、むしろQ&Aがびっしり来ているのは、なかなかちょっと…。

もっとも、中身がちゃんと読んでくださいという中身ですから、これでもいいと思うのですが、びしりと来ているので、むしろ全体的に余白というのはもう少しあった方がよいようなと思うぐらいなので、私はこれでよいような気がします。

関根委員

例えば、この間の行間の余白をもう少し詰めて、ページの余白を設けるというやり方もありますでしょうか。

鈴木委員

それでもよいと思いますし、先ほどおっしゃっていた、矢印を付けて四角で囲んでみるとか、そういうレイアウト上の工夫をすればもう少し見やすくなるかとも思います。罫<sup>けい</sup>で囲んだりすると、余白が気にならなくなるので。

沖森主査

では、ここで協議を打ち切るということにさせていただきます。

2年、2期にまたがりまして、国語課題小委員会で御検討いただきてきました「コミュニケーションの在り方及び言葉遣いについて」の検討も、このような報告の形で取りまとめることができました。御列席の皆様の御尽力のおかげであると、改めて御礼申し上げます。

この後、3月2日の国語分科会まで、主査、副主査と主査打合せ会のメンバー、そして事務局を中心に最後の詰めを更に行い、最終的な報告案として仕上げたいと思っています。つきましては、国語分科会での報告案に関しては主査に御一任いただきたくと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

( 国語課題小委員会、了承。 )

ありがとうございます。それでは、国語分科会までの仕上げにつきましては御一任いただいたということで進めてまいりたいと思います。

では、最後に、高橋国語課長から一言御挨拶をお願いいたします。

高橋国語課長

国語課長の高橋です。まず、これまで2期2年間にわたりまして精力的な御審議を頂き、報告書をまとめていただきましたことにつきまして、沖森主査、森山副主査をはじめとし、委員の皆様方に感謝を申し上げたいと思います。これまで、国語課題小委員会は17回、主査打合せ会14回ということで、数多くの会合を重ねていただき、大変濃密な御審議を頂いたものと私としては見ております。

コミュニケーションをめぐる諸課題につきまして、現代社会における重要なイシューであると考えております。言語コミュニケーションの四つの要素でありますとか、Q & Aという形で具体的な方策を含めまして、これからの時代のコミュニケーションの姿をお示しいただいたと、私としては理解をしております。行政の側といたしましても、報告書の考え方をしっかりと受け止めて、社会に対する普及ということ、考え方の普及ということだと思っておりますが、普及に努めていきたいと思っています。

また、本日午前中に文化審議会の総会が開かれました。「文化芸術推進基本計画」の答申が提出をされたところです。その中でいわゆる国語施策につきまして触れられている文言、全部ではないですが、一部御紹介をさせていただきたいと思っております。答申の中では、「文化の基盤として国語の果たす役割や重要性を踏まえ、個々人はもとより、社会全体としてその重要性を認識し、国語に対する理解を深め、生涯を通じて国語力を身に付けていくことを目指す」と記載があります。もちろん、これ以外にもたくさん記載がありますけれども、一番趣旨が凝縮されたところだと思いますので、御紹介させていただきます。この答申、「文化芸術推進基本計画」の中でも、国語及び国語施策の重要性はしっかりと位置付けられております。この計画の趣旨も踏まえながら、行政としてはこの報告書の趣旨を世の中に広めていくという立場になるかどうかと思っています。

最後になりますが、委員の皆様方のこれまでの御尽力に、改めまして感謝を申し上げます。どうも2年間、大変長い期間でございましたけれども、濃密な御審議を頂きましてありがとうございました。

沖森主査

2年にわたりまして国語課題小委員会として取り組んできました「コミュニケーションの在り方及び言葉遣いについて」を主査としてまとめることができました。本当、皆様方の御尽力のたまものと心より感謝申し上げます。今回、報告書をまとめることができたわけですが、これを一つのきっかけとして、この趣旨をまた広く敷衍<sup>えん</sup>させていただきますようお願いいたします。

それでは、今期の国語課題小委員会の審議はこれで終わりいたします。御出席、誠にありがとうございました。